

講義科目名称： 英語コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位 (30時間)	選択
担当教員			
西村 豊			
科目ナンバー : 1011B	授業形態 : 演習	幼免必、保選	
添付ファイル			

授業概要	<p>テキストは保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読み、園生活のさまざまな場面での保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学習します。</p> <p>この授業は、講義形式が基本です。講義に加えて、演習や発表を行います。各課の終了後には「小テスト」を実施し、理解状況を確認します。また、英語は言語であり、言語においては音声が重要であるという認識のもとに、発音練習やリスニング演習なども行います。</p>
授業計画	<p>1 Grammar 1 一般動詞・be動詞・五文型</p> <p>2 1 The School Year Begins 本文の読解</p> <p>3 1 The School Year Begins 基本表現、演習</p> <p>4 2 Arrival 本文の読解</p> <p>5 2 Arrival 基本表現、演習</p> <p>6 3 Playtime in the Classroom 本文の読解</p> <p>7 3 Playtime in the Classroom 基本表現、演習</p> <p>8 4 In the Sandbox 本文の読解</p> <p>9 4 In the Sandbox 基本表現、演習</p> <p>10 5 In the Playground 本文の読解</p> <p>11 5 In the Playground 基本表現、演習</p> <p>12 6 Lunchtime 本文の読解</p> <p>13 6 Lunchtime 基本表現、演習</p> <p>14 7 Changing Clothes and Story Time 本文の読解</p> <p>15 7 Changing Clothes and Story Time 基本表現、演習</p>
授業科目の目的	<p>急速にグローバル化が進む現代社会において、幼稚園や保育所に日本語を母語としない外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えています。保育の現場で必要な基本的な英語表現を身につけることを目的とします。また、英語を学ぶことを通じて、日本語の表現力の向上も目指します。</p>
学修成果	<p>1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができるようになります。</p> <p>2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようになります。</p> <p>3. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学ぶとともに、日本語との違いや日本語に対する意識も高め、表現力を向上させることができますようになります。</p> <p>4. 「将来の職場」である園生活の具体的な場面を学習していく中で、未来の保育者という能動的な態度・意識を身につけることができますようになります。</p>
テキスト	<p>新・保育の英語／森田和子／三修社／2,090円 (ISBN 9784384333992)</p>
参考書	<p>保育の英会話／赤松直子、久富陽子／萌文書林 (ISBN 9784893470775)</p> <p>保育英語の練習帳／宮田学、高橋妙子／萌文書林 (ISBN 9784893471932)</p>
授業外学修	<p>予習：授業内容進行表を参考にして、授業予定箇所をノートに写し、辞書を用いて分からない単語・熟語を調べ、本文の読解や演習問題を解いておく。この予習には90分～120分を要します。</p> <p>復習：各單元ごとに、まとめの小テストを実施します。そのためにも、授業の終わった後に、必ず学習したことについての復習をしてください。特に分からない箇所については必ず分かるようにしてください。この復習には90～120分を要します。</p>

フィードバックの方法	授業のノート提出してもらい、点検します。その中で、ノートがしっかりと取れておらず、理解が不十分と思われる項目等について追加説明を行います。 単元ごとに小テストを実施し、次の授業時に返却します。その結果の分析から理解が不十分と思われる個所については、再度説明を行います。 各単元の2回目の授業では、1回目の授業のフィードバックからはじめていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験 60%、小テスト・ノート 30%、授業態度 10%で総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	テキストと英和辞書、ノートを持参し、積極的に授業に取り組んでください。 辞書は電子辞書ではなく紙の辞書をできるだけ活用してください。 ノートは新しいA4版のノートを用意してください。 授業ノートのつくりかたについては最初の授業で指導します。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、120分をオフィスアワーとしていますので、自由に研究室においでください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	1968年4月から2017年3月まで38年間、高等学校に英語教師として勤務
その他の事項	

講義科目名称： 社会福祉論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位 (30時間)	必修
担当教員			
大西 清文			
科目ナンバー	授業形態	保必	
2002B	講義		
添付ファイル			

授業概要	<p>みなさんが目指す保育士、その職場となる保育園・児童福祉施設などは、福祉全体からみると児童福祉領域となります。また保育士は福祉の専門性を持った国家資格であり、子どものだけでなく、子どもの養育者への指導・支援や地域の子育て支援など子どもに関連する多様なニーズへの対応が求められています。そのために、児童福祉以外の広く福祉全般を学ぶ科目が社会福祉論になります。そもそも福祉とは何なのか、現在の福祉制度はどのようにになっているのか等の理解とともに、福祉の相談援助の方法と技術を学ぶ必要があります。さらに、老後の生活資金となる年金のこと、障害者支援の制度、最後のセーフティネットと呼ばれる生活保護のことなど、人の生活に直結する制度について広く学習することができます。近年の社会状況や問題を踏まえながら、学習内容が理解できるよう講義を進めていきます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の概念と理念 社会福祉の概念 社会福祉の理念 子ども家庭福祉の理念 2 子ども家庭支援と社会福祉 少子化の進行と子どもと子育て家庭をとり巻く環境の変化 地域子ども・子育て支援に関する制度・サービス 新しい子育て家庭への支援の動向 3 欧米の社会福祉の歴史的変遷と現状 イギリスにおける社会福祉の発祥と展開 アメリカの社会福祉の歴史 現在の各国の社会福祉政策 4 日本の社会福祉の歴史的変遷 近代日本の主な救貧制度 日本の社会福祉発展に功績を残した人物たち 第2次世界大戦後の日本と社会福祉 5 社会福祉の法・制度 社会福祉法 社会福祉六法 社会福祉制度 6 社会福祉の実施機関と施設 社会福祉の実施機関 児童相談所等 児童福祉施設 7 社会福祉サービス提供主体と在宅福祉・地域福祉の推進 社会福祉サービスを担う公的機関 社会福祉サービスを担う民間団体 在宅福祉・地域福祉の推進の動向 8 共生社会の実現と障害者施策 障害者施策・障害者基本計画の変遷と現状 障害児・者の共生社会実現に関する法体系 共生社会の今後の展開と課題 9 社会福祉専門職 社会福祉士の専門性と人間性 保育士の専門性と人間性 精神保健福祉士・介護福祉士の専門性と人間性 10 ソーシャルワークの定義 2000年に採択された「ソーシャルワークの定義」 2014年に採択された「ソーシャルワークのグローバル定義」 ケースマネジメント 11 ソーシャルワークの原則と要素 専門的な援助関係とは ソーシャルワークの原則について ソーシャルワークの構成要素 12 ソーシャルワークの過程 ソーシャルワークの導入段階 アセスメントとプランニングの段階 支援の実施から終結までの段階 13 ソーシャルワークの方法と技術 相手を理解すること 傾聴するために ソーシャルワークの現場で話を聴くということの意味 14 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み

	<p>情報提供と第三者評価 利用者の権利擁護 苦情解決 15 社会保障制度 社会保障制度とは 社会保障の各制度 社会保障の費用と財源</p>
授業科目の目的	<p>現代社会における社会福祉の理念と概念、子ども家庭支援、社会福祉制度と実施体系としての社会福祉の歴史の変遷・制度・法体系・行財政・実施機関・福祉施設・専門職・社会保障制度、社会福祉における相談援助の意義・機能、対象と過程、利用者保護に関わる仕組み、社会福祉の動向と課題として少子高齢化社会における子育て支援ならびに共生社会実現と障害者施策、在宅福祉・地域福祉の推進や諸外国の動向などについて理解をし、多様化する福祉ニーズに対する専門職としての役割や具体的な援助方法について学ぶことを目的とします。</p>
学修成果	<p>1 現代社会における社会福祉の意義、歴史の変遷及び社会福祉における家庭支援を理解することができる。 2 社会福祉の制度や実施体系について理解することができる。 3 社会福祉における相談援助について理解することができる。 4 社会福祉における利用者保護に関わる仕組みを理解することができる。 5 社会福祉の動向と課題について理解することができる。</p>
テキスト	<p>社会福祉／新川泰弘・宮野安治 著／青踏社／2019年 (ISBN978-4-902636-63-5) 保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会 編／みらい／2021年 (ISBN978-4-86015-502-5)</p>
参考書	<p>新・基本保育シリーズ 社会福祉／松原康雄・坪 洋一・金子 充 編集／中央法規／2019年 (ISBN978-4-8058-5784-7)</p>
授業外学修	<p>この授業は、授業科目の目的や学修成果を読むと分かりますが、情報量がとても多くなっています。このボリュームの内容を理解をするためには、予習・復習にしっかりと取り組まなければなりません。90～120分の時間を必要とします。</p>
フィードバックの方法	<p>授業初めに、前回の授業やレポートの講評などから始めます。</p>
定期試験の有無	<p>有</p>
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート・小テスト等30%、定期試験60%により総合的に評価します。</p>
受講の心構えとメッセージ	<p>みなさんが日頃利用している社会福祉は何ですか？この授業では、あなたが利用している福祉制度をはじめとして、子ども、障がい者、高齢者、ひとり親、貧困状態など人生の様々な状況において、その人たち一人ひとりが「幸せに暮らすこと」、そしてそのための法律や制度が膨大に出てきて、実に情報量が多い学習です。その情報量の多さは、福祉の広さを理解できる唯一の授業である事を意味しています。また、みなさんの人生にもつながる「福祉」でもあります。その理解を深めていけるように、日ごろから予習・復習に努めましょう。授業計画を参考にしながら、テキストの内容を整理しておくことは大切です。</p>
オフィスアワー	<p>授業時に曜日と時間を伝えますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。急な会議や出張などにより対応ができなくなる場合もあるので、必ず事前連絡をしてください。</p>
実務経験の有無	<p>有</p>
実務経験の概要	<p>児童相談所ほか地方自治体の福祉部門において、ソーシャルワーカーなどとして、通算18年間勤務。</p>
その他の事項	

講義科目名称： 音楽表現論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位 (15時間)	必修
担当教員			
杉山 雄一			
科目ナンバー : 2008A	授業形態 : 講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で表出させる素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての感性を養います。また、子どもが表現する事の楽しさを見い出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法、そして音楽的知識を身に付けます。さらには家庭及び小学校の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を修得します。
授業計画	<p>1 感性と表現に関する領域「表現」について、その概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」の理解と、音楽表現における子どもの発達過程、音楽表現の基礎知識 ・音楽表現に必要な音楽要素の理解と、子どもの発達に伴う声域についての理解 <p>2 音と表現、音と音階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 ・イメージを表現する為の音や音階の理解 <p>3 子どもの歌(童謡など)、音符と休符</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の子どもの歌と歴史的背景の理解 ・時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 <p>4 5領域の関連を考慮した音環境、拍とリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 ・身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践 <p>5 豊かな表現を引き出す援助、楽器の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践における豊かな表現を引き出す援助のあり方についての理解 ・楽器の取扱いと、正しい演奏法の理解と実践 <p>6 指導案の理解と立案、コード(和音)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 ・身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践 <p>7 音楽表現及び保育の可視化、コード(和音)による音楽表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの音楽表現を可視化するための手法と理解 ・ポートフォリオなどを活用した保育の可視化 ・保育現場に応じた音楽を「コード」で表現する方法の理解と実践 <p>8 音楽表現活動及び小学校教科「音楽」への繋がり、器楽演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と園生活における子どもの音楽表現活動、及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ ・園行事等での器楽演奏を表現豊かにするための理解と実践
授業科目の目的	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付けることを目的とします。
学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容、その取扱いを理解することができるようにします。 ・音楽表現に必要な音楽要素を理解することにより、子どもの表現活動を援助するための実践力を身に付けることができるようになります。 ・ポートフォリオなどによる音楽表現の可視化と指導案の立案を通して、現場に求められる実践力を身に付けることができるようになります。 ・音楽表現活動、及び小学校教科「音楽」への繋がり的重要性を理解することができるようにします。
テキスト	<p>音楽表現論／豊岡短期大学音楽担当教員／豊岡短期大学</p> <p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4577812457</p> <p>保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-4577814482</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-4577813737</p>
参考書	<p>育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」の挑戦 実践接続期カリキュラム／木村吉彦監修／ぎょうせい／ISBN:978-4324100844</p> <p>こどものうた「簡易伴奏曲付き」／田中常雄監修 平島美穂他編著／圭文社／ISBN:978-4874460764</p> <p>かんだんメソッド「コードで弾きたい」／細田淳子他著／カワイ出版／ISBN:978-4760940387</p> <p>手あそび百科／植田光子編著／ひかりのくに／ISBN:978-4564603839</p> <p>乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 表現／鈴木みゆき他編著／光生館／ISBN:978-4332701880</p> <p>保育内容「表現」論／名須川知子他著／ミネルヴァ書房／ISBN:978-4623047178</p>
授業外学修	<p>授業内容進行表にはそれぞれの回のテーマが記され、修得していく内容が表されています。各テーマを参照し、予習したことをノートにまとめましょう(0.5時間)。</p> <p>復習では、授業で学んだ内容をどのように深め、どう実践していくのかを、テキスト、参考書などを参考にまとめましょう(0.5時間)。</p>
フィードバックの方法	<p>授業の中での疑問や理解できなかった点、授業を通して気付いたこと、感想などについて、修正や再度の説明が必要な個所は次回の授業で解説します。小テストを実施した場合は次回の授業時に返却し、再度学修する必要がある場合は、随時授業中に取り上げます。レポートを課した場合は、コメントを付したのちに次回以降の授業時に返却します。定期試験の結果及び、実施課題の内容評価については、教務学生課の成績公表後、希望すれば、各自が研究室に訪問した際にフィードバックします。</p>

定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度(10%)、実践課題の内容(40%)、定期試験(50%)により、総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	この講義は、領域「表現」における音楽表現を身に付けるための、大変重要な授業です。7.5コマという少ない時間内でそれらを十分に理解するためには、授業外での学修が重要となります。使用するテキスト及び参考書を有効に活用し、予習、復習を怠らないでください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に「melly」で予約をしてから来てください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	(特非) リトミック研究センター認定上級指導員として幼稚園・保育園・認定こども園でリトミック指導を行う。
その他の事項	各自、五線ノートとプリント保管用ファイル(クリアファイルノートなど)を用意してください。

講義科目名称： こどもの指導法「リズム表現」

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位 (15時間)	必修
担当教員			
杉山 雄一			
科目ナンバー : 3013A	授業形態 : 演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	<p>子どもの自己表現において、音楽と身体とは密接な関係にあります。本授業では領域「表現」の内容を主軸として他領域と関連させながら、子どもの音楽的表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学修します。さらに、小学校教科との繋がりを見通した保育を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求します。</p> <p>各テーマに対して、講義をしながら実践的な演習を中心に授業を進めていきます。</p>
授業計画	<p>1 領域「表現」についての基本的な考え方</p> <p>① 幼児教育史の理解と「表現」についての洞察</p> <p>② 領域「表現」の指導で重要な「表現」の捉え方と評価についての理解</p> <p>2 基礎リズム</p> <p>① 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点</p> <p>② 幼児期の身体的・精神的発達を踏まえた指導法の理解</p> <p>3 基本動作</p> <p>① 幼児の心情・認識・思考及び動き等を踏まえた基本動作の実践</p> <p>② 観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践</p> <p>4 多様な振り付けの実践と理解</p> <p>① 童謡やわらべうたによる多様な振付の実践</p> <p>② 幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践</p> <p>5 楽器の製作と活用</p> <p>① 楽器取扱いの理解と、身近な素材を使った手作り楽器の製作と活用</p> <p>② 指導案作成基礎の理解と、手作り楽器を使った指導案の作成</p> <p>6 領域「表現」と小学校教科等のつながり</p> <p>① オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について</p> <p>② 領域「表現」と小学校教科等との繋がり</p> <p>7 表現する力を育てるための保育者の役割と援助</p> <p>① 絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践</p> <p>② 保育構想発展のための相互発表による振り返り</p> <p>8 リズム遊び</p> <p>表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作と実践</p>
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、音楽的表現を展開するために必要な知識や技術を見出し、保育の方法を修得することを目的とします。また、子どもの表現の指導援助者として、保育で扱う教材について必要な知識を併せて修得します。さらに、実践を通して保育者に必要な感性や人間力の育成を目指します。</p>
学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」におけるリズム表現（身体表現を含む）の位置づけを理解できるようにします。 ・基礎リズムパターンを理解し、指導法を修得できるようにします。 ・子どものイメージを豊かにする指導法の実践を通して、必要な知識や技術を修得できるようにします。 ・領域「表現」と小学校教科等のつながりを理解できるようにします。
テキスト	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4577812457</p> <p>保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-4577814482</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-4577813737</p>
参考書	<p>こどものうた[簡易伴奏曲付]／田中常雄監修 平島美保他編著／圭文社／ISBN:978-4874460764</p> <p>1～5歳のかんたんリトミック／神原雅之著／ナツメ社／ISBN:978-4816354083</p> <p>リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選／神原雅之編 井上恵理他著／明治図書／ISBN:978-4187700168</p> <p>乳幼児のダンスABC／猪崎弥生・山田悠莉著／一二三書房／ISBN:978-4891991524</p> <p>乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 表現／鈴木みゆき他編著／光生館／ISBN:978-4332701880</p>
授業外学修	<p>授業内容進行表にはそれぞれの回のテーマが記され、修得していく内容が表されています。各テーマを参照し、予習したことをノートにまとめましょう (0.5時間)。</p> <p>復習では、授業で学んだ内容をどのように深め、どう実践していくのかを、テキスト、参考書などを参考にまとめましょう (0.5時間)。</p>
フィードバックの方法	<p>授業の中での疑問や理解できなかった点、授業を通して気付いたことなどについて、修正や再度の説明が必要な個所は次回の授業で解説します。小テスト実施の場合は次回授業時に返却し、再度の学修の必要があれば随時授業中に取り上げます。レポートを課した場合は、コメントを付したのちに次回以降の授業時に返却します。定期試験の結果及び実施課題の内容評価について、成績公表後希望があればフィードバックを行います。</p>
定期試験の有無	有
成績評価基準	<p>授業態度(10%)、実践課題の内容(40%)、定期試験(50%)を、総合的に評価します。</p>
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に動き、グループ内での協調性を大切にし、保育者を目指して学修しているのだという目的意識を持って授業に臨むことが大切です。 ・7.5コマという短い授業時間数の中で、多くの内容を修得して行かなくてはならないことを自覚し、欠席、遅刻、早退することがないようにしてください。

オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に「melly」で予約をしてから来てください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	県立高等学校音楽科に11年勤務（特別非常勤講師）。（特非）リトミック研究センター認定上級指導員として幼稚園・保育園・認定こども園でリトミック指導を行う。
その他の事項	実践を通しての学びが多くなりますので、動きやすい服装で臨んでください。また、ホールを使用する場合は上履きが必要になりますので、準備しておいてください。

講義科目名称： 表現とこどもの運動

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位 (15時間)	選択
担当教員			
川端 義明			
科目ナンバー : 2011A	授業形態 : 演習	幼免選、保必	
添付ファイル			

授業概要	こどもの表現活動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びや運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びや運動が展開できる知識及び実践力を深めます。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 こどもを取り巻く環境の変化について こどもを対象とした運動遊びのねらい 2 こどもの発達と運動について 心身の発育発達と運動の意義 3 運動遊びの基本的な動き 基本動作と調整力 4 身体コントロール能力の向上 調整力を高める運動遊びや体づくり運動 5 こどもの表現運動Ⅰ こどもの身体表現の教育的意義 6 こどもの表現運動Ⅱ 身体表現運動のねらいと指導上の留意点 7 表現運動の実践 年齢別発達における表現遊びや運動 8 表現運動における安全指導 安全管理について
授業科目の目的	本授業では、こどもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるための様々な表現ができる環境設定が大切であることを理解することを目的とします。また、年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して、こども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよくなかかわっていくことができるかを発達段階に応じて展開させることを学びます。さらに、こどもたちが楽しく表現することができる安全面の配慮についても認識を深めることを目指します。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの表現活動における援助者の役割について理解し、人的環境について説明するとともに、身体表現遊びや運動の留意点について理解することができるようになります。 2. 日常におけるこどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、表現活動が豊かな感性に関連していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動が5つの領域に相互に関わり合っていることを理解することができるようになります。 3. こども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達段階に応じた援助の在り方を理解することができるようになります。
テキスト	表現とこどもの運動/豊岡短期大学
参考書	幼稚園教育要領解説/フレーベル館 保育所保育指針解説/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/フレーベル館
授業外学修	予習として、各回の授業内容に学びのキーワードが設けられていますので、それに関わる資料等を熟読し、まとめておく。この予習には約90～120分の学習時間を要します。 復習として、講義資料や授業内での口頭説明と参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には約90～120分の学習時間を要します。また、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。
フィードバックの方法	授業中の皆さんの疑問や気付き及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭により説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。 2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。 3. 定期試験では、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。
受講の心構えとメッセージ	この演習は、参加すること、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、オフィスアワーは週1回90分です。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。
実務経験の有無	有

実務経験の概要	2017年4月から2020年3月まで幼稚園長
その他の事項	

講義科目名称： 保育原理

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位 (30時間)	選択
担当教員			
小西 浩美			
科目ナンバー	2018A	授業形態	講義 保必
添付ファイル			

授業概要	<p>現代社会において子どもを取り巻く状況は日々複雑化しています。平成30年度からそれらを踏まえて新しい保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育指針保育が施行されて保育の現場は大きく変化しています。保育者はこのような状況を十分に理解した上で信念をもち保育を行っていく必要があります。そのためには現行の保育の制度を理解するとともに、保育の基本（理念・役割・歴史・実践等）を学び保育についての幅広い視野を養うことが重要です。</p> <p>本講義では保育者がそれらを踏まえ現代におけるよりよい保育のあり方を考え実践できる基礎力を養います。</p> <p>授業は講義形式が基本です。実際の保育の場や子どもの姿などについてはDVDを視聴するなど、イメージを広げながら保育の原理を学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育とは何か 保育の意義と目的 2 保育者・保育施設に求められる役割 1 子どもの最善の利益を考慮した保育 理解したことを実際の行動につなぐ 3 保育者・保育施設に求められる役割 2 保育の社会的意義 4 保育所保育指針における保育の方法 1 保育の目標と内容 養護と教育の一体性 5 保育所保育指針における保育方法 2 環境を通して行う保育 6 保育の過程 子どもに応じた保育の方法や形態 7 保育の計画 1 保育における計画の意義と変遷 8 保育の計画 2 計画・実践・記録・省察・改善の循環 9 保育に関する法令及び制度 保育所に関する法令と制度 10 保育の思想と歴史的変遷 1 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展 11 保育の思想と歴史的変遷 2 わが国における保育の歴史的変遷 12 保護者との連携と子育て支援 保護者との関係性 保護者に対する子育て支援・連携の方法 13 保育におけるさまざまな配慮 個別の配慮と集団への配慮及び具体的な方法 14 保育の場における子育て支援 子育て支援に関する基本的事項 15 現代における日本の保育の現状と課題 諸外国の保育の現状と課題 日本の保育の現状と課題 まとめ
授業科目の目的	<p>保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基礎的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求します。現代社会における子どもを取り巻く状況や課題について考察し、子どもや保護者と向き合うことができる知識を養うとともに、乳幼児の特性に応じた保育を実践するための基礎的な力を養うことを本講義の目的とします。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解することができるようになります。 2. 保育所に関する法令及び制度を理解することができます。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解し説明することができます。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解し、現在の保育に重ね合わせて考えることができます。 5. 保育の現状と課題について意識をもち、現代における保育あり方を論じることができるようになります。
テキスト	<p>保育原理／栗岡あけみ・和田真由美著／豊岡短期大学 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2NDC376。 必要に応じてプリントを配布します。</p>
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2NDC376。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-</p>

	4 - 577 - 81449 - 9NDC376.
授業外学修	予習として、次回のテーマについて参考文献等に目を通しておく必要があります。それには90～120分程度の学習時間を要します。 復習として、授業の振り返りレポートを丁寧に作成し、重要項目をしっかりと押え把握します。それには90～120分程度の学習時間を要します。
フィードバックの方法	レポート課題は次週以降、理解が不十分な個所については教員が随時捕捉説明をしていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート提出40%、定期試験50%により数量化して総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	レポートは必ず提出してください。毎時間の講義を大切に受講してください。
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯等をお伝えします。90分をオフィスアワーとします。不在の場合もあり、事前に「melly」で予約してください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位 (30時間)	選択
担当教員			
西村 重喜、大西 清文			
科目ナンバー	2019A	授業形態	講義 保必
添付ファイル			

授業概要	<p>今日の日本には、18歳未満の児童が約1800万人、その中で社会的養護を要する児童が約4万6千人にいます。(参考・兵庫県 18歳未満児童：約61万／養護児童：約1200人)。彼らは全員、親と一緒に暮らせない事情を抱えています。児童福祉施設の職員や里親などの代替養育者は、子どもと生活を共にする中、一人ひとりに寄り添いながら、健やかな養育と自立支援などの児童福祉の実践に日々取り組んでいます。</p> <p>その児童福祉の原理は「子どもは権利主体であること」、「子どもの最善の利益を守ること」、「社会全体で子どもを育むこと」と児童福祉法に定められており、本授業ではこの原理を視座にすえて、必要な視点・姿勢・専門知識を学修します。</p> <p>さらにこの授業での学びが、社会的養護Ⅱ・保育実習(施設)につながり、施設保育士や保育所保育士を目指す上で必要な社会的養護の現状の把握へとつながるように授業を進めていきます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> 1 授業のねらい 2 学びの道のり 子どもを育てる人とその育ちの場について 充実した施設実習に向けて 2 現代社会における社会的養護の意義 1 <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護と関連概念 2 社会的養護の基本的考え方と体系 3 社会的養護の現状と方向 3 社会的養護の歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1 欧米における社会的養護の歴史の変遷 2 日本における社会的養護の歴史の変遷 4 社会的養護の基本・制度・法体系 1 <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護における子どもの人権擁護 2 社会的養護の基本原則 5 社会的養護の基本・制度・法体系 2 <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の仕組みと実施体系 <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護の仕組み 2 社会的養護の実施体系 3 児童福祉法改正と「新しい社会的養育ビジョン」 7 里親、ファミリーホーム、養子縁組 1 <ol style="list-style-type: none"> 1 家庭養護の推進 2 里親制度 8 里親、ファミリーホーム、養子縁組 2 <ol style="list-style-type: none"> 1 小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム) 2 養子縁組(特別養子縁組・普通養子縁組) 3 フォスターリング機関(里親養育包括支援機関)とその職種 9 社会的養護の実際 1 (1) <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児院 2 児童養護施設 10 社会的養護の実際 1 (2) <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児院 2 児童養護施設 3 乳児院・児童養護施設の高機能化及び多機能化・機能転換、小規模化・地域分散化の進め方 11 社会的養護の実際 2 <ol style="list-style-type: none"> 1 児童心理治療施設 2 児童自立支援施設 12 社会的養護の実際 3 <ol style="list-style-type: none"> 1 自立援助ホーム(児童自立生活援助事業) 2 母子生活支援施設 13 社会的養護の専門職 <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設に配置されている主な職種 2 社会的養護におけるソーシャルワークの視点 14 社会的養護の施設等の運営管理 <ol style="list-style-type: none"> 1 被措置児童等の虐待防止とその取り組み 2 第三者評価 15 社会的養護Ⅰのまとめ 学習全体のまとめと振り返り

授業科目の目的	我が国において、「保護者からの適切な養育が受けられない子どもへの養育支援」や「養育に困難を抱えている家庭への子育て支援」など、すべての子どもに対して、その成長や発達に応じた養育環境が「子どもの権利」として法律の下で保障される中、社会的養護の施策は、制度や実施体系化され、実際の子どもの状況に応じた施設や専門職配置などの支援に結び付いています。 また、現代における日本の社会的養護は、海外とは大きく異なり、これは先人の偉大な取り組みが紡がれ続けた結果でもあります。 本授業では、この社会的養護の理念や在り方などの基本、歴史的変遷、今日の制度・実施体系・施設等の正しく理解することが第一義の目的です。加えて、学生諸君が社会的養護での学びを生かせる保育士になるため、『「子どもの権利と最善の利益」を意識しながら一人ひとりに寄り添う心の萌芽』を目指しています。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における社会的養護の意義と歴史的変遷を理解することができる。 2 子どもの人権擁護を踏まえた上での社会的養護にかかる基本原則を理解することができる。 3 社会的養護の法制度や実施体系等を理解することができる。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等を理解することができる。 5 社会的養護の現状と課題を理解することができる。
テキスト	社会的養護入門/ 芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和 編著/ ミネルヴァ書房/ 2021年 (ISBN 9784623092239) 保育福祉小六法/ 保育福祉小六法編集委員会 編/ みらい/ 2022年 (ISBN 9784860155704)
参考書	
授業外学修	予習については、テキスト指定範囲の読了や参考資料探索・整理等、復習については、授業内容の振り返り等、授業前後で指示された内容に取り組みます。いずれも90～120分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	授業初めに、前回の授業やレポート講評などから始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10% レポート・小テスト等30%、定期試験60%とし、総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	社会的養護を学ぶ上で、その背景にある貧困や児童虐待など子どもの養育や権利等についての社会問題を知ることが大切です。新聞やテレビ・インターネットのニュースや動画配信などを上手に活用しましょう。 特に、成人した社会的養護当事者の情報発信は、様々なメディアを通じて充実しており、社会的養護を世に伝えようとするその声を聴くことで、社会的養護の理解を深めることができます。(参考: YouTube・THREE FLAGS)
オフィスアワー	授業時に曜日と時間を伝えますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。急な会議や出張などにより対応ができなくなる場合もあるので、必ず事前連絡をしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	(西村) …中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚部を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。 (大西) …児童相談所ほか地方自治体の福祉部門において、ソーシャルワーカーなどとして、通算18年間勤務。
その他の事項	

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位 (15時間)	選択
担当教員			
西村 重喜、大西 清文			
科目ナンバー	3021B	授業形態	演習 保必
添付ファイル			

授業概要	<p>全国には、612の児童養護施設 (31)、144の乳児院 (9)、51の児童心理治療施設 (1)、58の児童自立支援施設 (2)、4742の里親家庭 (141)あり、親と暮らせない事情を抱えた約46000人 (約1200人)が、いずれかの場所等で生活しています。それぞれの施設に措置対象となる子どもは異なり、そこでの暮らしも全く異なります。(※括弧内の数字は兵庫県内の実数)</p> <p>この授業では、彼らの暮らす場所の特性とそこでの生活、そしてどのような支援とその計画が取り組まれているのか等の支援の実際を理解します。また、社会的養護における「保育の専門性」や「相談援助」の知識・技術、家庭支援の理解を深めることも重要です。さらにこの授業での学びが、保育実習(施設)につながっていく授業を進めていきます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護における子どもの理解 子どもの権利擁護/子どもの理解を深める 2 社会的養護の内容 日常生活支援/治療的支援/自立支援 3 施設養護の特性と生活の実際 子どもの状態に応じた施設の特性や生活等の実際について 4 家庭養護の生活特性及び実際 家庭養護とは/里親制度 家庭養護と家庭的養護の高機能化の推進 5 アセスメントと個別支援計画の作成 アセスメントと個別支援計画/自立と自立支援計画 6 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 相談援助の定義/ソーシャルワークにおける支援 7 社会的養護に関わる専門的技術 社会的養護における保育の専門性 8 社会的養護における家庭支援/社会的養護の課題と展望 家庭支援をするとはどういうことか 社会的養護の課題と将来像
授業科目の目的	<p>日本における児童福祉の法や制度体系など社会的養護の全体像を把握とその養護を要する子どもの現状理解と彼らへの支援に関する知識の理解とその相談援助にあたるための技術の理解・実践を目指しています。また、社会的養護の背景にある児童虐待の防止や家庭支援について、今日の子どもの取り巻く様々な問題を踏まえながら理解を進めます。</p> <p>特に「子どもの権利擁護と最善の利益を守る」という原理を視座に据えた上で、事例検討を交えながら、その実際を考え、施設実習に向かう学びとなることを目指します。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。
テキスト	<p>社会的養護入門/ 芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和 編著/ミネルヴァ書房/2021年 (ISBN 9784623092239)</p> <p>保育福祉小六法/保育福祉小六法編集委員会 編/みらい/2022年 (ISBN 9784860155704)</p>
参考書	
授業外学修	<p>予習については、テキスト指定範囲の読了や参考資料探索・整理等、復習については、授業内容の振り返り等、授業前後で指示された内容に取り組みます。いずれも90～120分の学習時間を要します。</p>
フィードバックの方法	
定期試験の有無	有
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート・小テスト等30%、定期試験60%により総合的に評価します。</p>
受講の心構えとメッセージ	<p>社会的養護Ⅰでは、原理や法律、制度体系について詳しく学習をしました。そこから続く社会的養護Ⅱでは、その制度や施設の実際について、講義と演習形式で理解を深めていきます。そのためには、社会的養護Ⅰの復習をしておく必要があります。</p>
オフィスアワー	<p>授業時に曜日と時間を伝えますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。急な会議や出張などにより対応ができなくなる場合もあるので、必ず事前連絡をしてください。</p>
実務経験の有無	有
実務経験の概要	<p>(西村) …幼稚園を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。</p> <p>(大西) …児童相談所ほか地方自治体の福祉部門において、ソーシャルワーカーなどとして、通算18年間勤務。</p>

その他の事項	
--------	--

講義科目名称： こどもの食と栄養

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位 (30時間)	選択
担当教員			
日下部 恵子			
科目ナンバー : 2021C	授業形態 : 演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	<p>子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基礎が形成され、その後の心と身体の健康に大いに影響を及ぼす。健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解を深める。食育の基本と内容及び食育のための環境と地域社会との連携について理解する。家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。食育の演習を通して、保育・教育の場に役立つ食育の実践力を習得し、子どもや保護者への食生活の支援ができる応用力を培う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/子どもの健康と食生活の意義 授業のねらい、概要/子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題 2 子どもの発育・発達と食生活 身体発育、精神機能・運動機能・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活 3 栄養に関する基本的知識 (1) 栄養素の種類と働き (炭水化物、脂質、たんぱく質) 4 栄養に関する基本的知識 (2) 栄養素の種類と働き (ビタミン、ミネラル (無機質)、水分) 5 栄養に関する基本的知識 (3) 日本人の食事摂取基準の意義と活用、献立作成・調理の基本、食事バランスガイド、食生活指針 6 子どもの発育・発達と食生活—授乳期の栄養と食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 授乳期の栄養と食生活、乳児期の心身の特徴と食生活の関係、乳児栄養 (母乳栄養) 7 子どもの発育・発達と食生活—乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 乳児栄養 (人工栄養、混合栄養)、離乳の意義とその実践 8 子どもの発育・発達と食生活—幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の心身の特徴と食生活の関係、幼児期の食生活の特徴、間食の意義と実践、食生活上の問題と健康への対応 9 子どもの発育・発達と食生活—学童期・思春期の心身の発達と食生活 学童期・思春期の心身の特徴と食生活、学童期・思春期の栄養上の問題と健康への対応、学校給食、食育 10 食育の基本と内容 食育の基本、食育の内容と計画および評価、食育のための環境づくり、地域や家庭と連携した食育の展開。乳幼児期の食育の実践、食育の教材 (媒体) 11 (演習) 乳幼児の食生活 乳幼児期の食事、食育の実践 12 (実習) 幼児期の食生活 幼児食の実習、食育の実践 13 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 家庭における食生活のあり方、児童福祉施設給食の基本方針、保育所給食 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 子どもの疾病の特徴と食生活、食物アレルギーのある子どもへの対応 15 子どもの食と栄養についてまとめ、考察
授業科目の目的	<p>子どもが健康な生活を営むために、栄養や食生活の基本的知識を学ぶ。子どもの健全な発育・発達を促すために必要な栄養と食生活を学び、健康と食生活との関係を理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状や課題、特別な配慮を要する子どもへの対応も学ぶ。食育の基本と内容を的確に理解し、食を通じた保護者への支援や食育を家庭、保育所で取り組み、実践できるような力を身に付ける。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基礎として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を理解し、保育現場で応用できる。 2. 子どもの発育段階に応じた食生活や課題を理解し、発育段階に応じた食生活の支援ができる。 3. 健康的な食生活とは何かを理解し、実際の食生活で実践できるようになる。 4. 食育の重要性を理解し、日常の保育の中で食育の実践ができる。 5. 食物アレルギー対応や食中毒の予防などの正しい知識を習得し、明確な配慮ができる。
テキスト	<p>堤ちはる、土井正子 編著：「子育て・子育てを支援する こどもの食と栄養」<10版>、萌文書林、2022 ISBN978-4-89347-154-3</p>
参考書	<p>・飯塚美和子、他編：「最新子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために」<第9版>、学建書院、2021 ISBN978-4-7624-6841-4</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・岩田 章子、寺島 昌代 編：新時代の保育双書「新・子どもの食と栄養」、みらい、2021 ISBN978-4-86015-532-2 ・小川 雄二 編：「子どもの食と栄養演習<第5版>」、建帛社、2020 ISBN978-4-7679-5128-7 ・新しい食生活を考える会 編著：「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表」、大修館書店、2021 ISBN978-4-469-27012-0
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業で扱うテーマを教科書で予習し、授業内容を理解するように取り組む。 ・授業終了後は復習し、知識の定着に努める。不明な内容があれば、質問などで確認しておく。
フィードバックの方法	<p>授業中の質問は、授業時間内で口頭で説明します。 課題レポート・提出物については、確認して添削・講評後、返却します。質問は適宜対応します。 小テストの結果は、次週の授業で返却し、必要に応じて解説します。</p>
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験（50%）、小テスト（20%）、演習課題・レポート提出（15%）、演習（実習）の取り組み態度・レポート提出（15%）
受講の心構えとメッセージ	子どもの食と栄養は、幼稚園や保育所、施設等において正確な知識と実践的な対応が求められます。毎回の授業に真剣に取り組んでください。
オフィスアワー	授業時間終了後、または遠隔授業システム（melly等）にて対応します。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	日下部恵子…大学病院に勤務。実務経験、臨床検査及び栄養指導、栄養調査・研究に従事。大学において、栄養・保育・養護関連の科目に従事。
その他の事項	教科書で予習・復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するように取り組む。

講義科目名称： こどもの食と栄養

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位 (30時間)	選択
担当教員			
大澤 みどり			
科目ナンバー	2021C	授業形態	演習 保必
添付ファイル			

授業概要	<p>子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基礎が形成され、その後の心と身体の健康に大いに影響を及ぼす。健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解する。家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。食育の演習を通して、保育・教育の場に役立つ食育の実践を修得し、こどもや保護者への食生活の支援ができる応用力を培う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／子供の健康と食生活の意義 授業のねらい、概要／子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題 2 子どもの発育・発達と食生活 心身発育、精神機能・運動機能・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活 3 栄養に関する基礎知識（1） 栄養素の種類と働き（炭水化物、脂質、タンパク質） 4 栄養に関する基礎知識（2） 栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル（無機質）、水分） 5 栄養に関する基礎知識（3） 日本人の食事摂取基準の意義と活用、献立作成・調理の基本、食事バランスガイド、食生活指針 6 子どもの発育・発達と食生活—授乳期の栄養と食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 授乳期の栄養と食生活、乳児期の心身の特徴と食生活の関係、乳汁栄養（母乳栄養） 7 子どもの発育・発達と食生活—乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 乳汁栄養（人工栄養、混合栄養）、離乳の意義とその実践 8 子どもの発育・発達と食生活—乳児期の心身の発達と食生活 乳児期の心身の特徴と食生活の関係、幼児期の食生活の特徴、間食の意義と実践、食生活上の問題と健康への対応 9 子どもの発育・発達と食生活—学童期・思春期の心身の発達と食生活 学童期・思春期の心身の特徴と食生活、学童期・思春期の栄養上の問題と健康への対応、学校給食、食育 10 食育の基本と内容 食育の基本、食育の内容と計画及び評価、食育のための環境づくり、地域や家庭と連携した食育の展開。乳幼児期の食育の内容と基本および実践、幼児期の食育と教材（媒体） 11 (演習) 乳幼児期の食事、食育実践 12 (実習) 幼児食の実習、食育実践 13 家庭や児童養護施設における食事と栄養 家庭における食生活のあり方、児童養護施設給食の基本方針、保育所給食 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 子どもの疾病の特徴と食生活、食物アレルギーのある子への対応 15 子どもの食と栄養についてまとめ、考察
授業科目の目的	<p>子どもが健康な生活を営むために、栄養や食生活の基本的知識を学ぶ。子どもの健全な発育・発達を促すために必要な栄養と食生活を学び、健康と食生活との関係を理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状や課題、特別な配慮を要する子どもへの対応も学ぶ。食育の基本と内容を的確に理解し、食を通じた保護者への支援や食育を課程、保育所での取り組み、実践できるような力を身に付ける。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基礎として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を理解し、保育現場で応用できる。 2. 子どもの発育段階に応じた食生活や課題を理解し、発育段階に応じた食生活の支援ができる。 3. 健康的な食生活とは何かを理解し、実際の食生活で実践できるようになる。 4. 食育の重要性を理解し、日常の保育の中で食育の実践ができる。 5. 食物アレルギー対応や食中毒の予防などの正しい知識を習得し、明確な配慮ができる。
テキスト	<p>堤ちはる、土井正子 編著：「子育て・子育てを支援する こどもの食と栄養」＜10版＞、萌文書林、2022、ISBN 978-4-89347-154-3</p>
参考書	<p>・飯塚美和子、他編：「最新子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために」＜第9版＞、学建書院、2021 ISBN 978-4762468414 ・岩田 章子、寺嶋 昌代 編：新時代の保育双書「新・子どもの食と栄養」、みらい</p>

	ISBN 978-4-86015-532-2 ・小川 雄二 編：「子どもの食と栄養演習<第5版>」. 建帛社、2020 ISBN 978-4-7679-5128-7 ・新しい食生活を考える会 編著：「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表」、大修館書店、2021 ISBN 978-4-469-27012-0
授業外学修	・毎回授業で扱うテーマを教科書で予習し、授業内容を理解するように取り組む。 ・授業終了後は復習し、知識の定着に努める。不明な内容があれば、質問などで確認しておく。
フィードバックの方法	授業中の質問は、授業時間内で口頭で説明します。 課題レポート・提出物については、確認して添削・講評後、返却します。質問は適宜対応します。 小テストの結果は、次週の授業で返却し、必要に応じて解説します。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験（50%）、小テスト（20%）、演習課題・レポート提出（15%）、実習・演習の取り組み態度・レポート提出（15%）
受講の心構えとメッセージ	子どもの食と栄養は、幼稚園や保育所、施設において正確な知識と実践的な対応が求められます。毎回の授業に真剣に取り組んでください。
オフィスアワー	授業時間終了後、または遠隔授業システム（Melly等）にて対応します。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大澤みどり…学校栄養職員、栄養教諭（現職）として小学校、中学校で41年の実務経験があります。
その他の事項	授業外学習として、教科書で予習・復習をしっかりとって、毎回の授業内容を理解するように取り組む。

講義科目名称： 教育課程論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(30時間)	選択
担当教員			
宿南 久美子			
科目ナンバー : 3007A	授業形態 : 講義	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	<p>教育課程・全体的な計画とは、幼稚園・保育所・認定こども園が、何（教育・保育目標）を大切に、どのような方法（教育・保育方針）で、どのように（教育・保育内容）、どの時期（教育・保育期間）にしていくかという全体計画であり、保育の羅針盤ともいえるものです。幼児教育・保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割を明らかにしていきます。この授業は、事前に配付したプリントに基づき、パワーポイントを使って進めていきます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程とは 保育所・認定こども園と幼稚園に関する制度の比較 「教育課程」「全体的な計画」編成の基本的な考え方 2 「教育課程」「全体的な計画」の基礎理論 「教育課程」「全体的な計画」の意義と必要性 3 「教育課程」「全体的な計画」の構造 「教育課程」「全体的な計画」編成の前提・基盤 4 幼稚園の教育課程 時代の変化に対応した幼稚園の「教育課程」の在り方・編成・評価 5 保育所・認定こども園の全体的な計画 「全体的な計画」の基本 6 保育所保育・認定こども園保育の特性を踏まえて 3歳未満児の発達と保育内容 7 長期の指導計画 園生活と長期の指導計画 8 短期の指導計画 短期指導計画の意義・作成・活用 9 幼・保・小の連携カリキュラム 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム (アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム) 10 開かれた園生活のカリキュラム 1 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く 11 開かれた園生活のカリキュラム 2 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く 12 危機管理保育のカリキュラム 危機管理保育カリキュラムの意義と必要性 13 時代の変化と新たな保育内容 1 多文化保育のカリキュラム 14 時代の変化と新たな保育内容 2 信頼される園づくりと学校評議員制度 15 時代の変化と新たな保育内容 3 育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
授業科目の目的	<p>幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・全体的な計画とは何か、なぜ必要であるか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・全体的な計画について理解できるようにします。 2. 教育課程・全体的な計画の編成と指導計画の作成について、具体的に習得できるようにします。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解できるようにします。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができますようにします。
テキスト	<p>各回の授業内容ごとに資料を配付します。</p>
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>
授業外学修	<p>確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にきちんと取り組むことを忘れずに行ってください。 予習：その回のキーワードを学ぶための要点や実践事例を配布資料に記しています。予習では、配布資料を熟読して授業に臨んでください。この予習には90～120分程度の時間を要します。 復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。</p>

	90～120分程度の時間を要します。
フィードバックの方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度・意欲30%、課題・レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	教育課程・全体的な計画は、幼稚園・保育所・認定こども園での在園期間、あるいは日々の保育の方向性を示す基盤となるものです。授業では、教育課程・全体的な計画とは何か、なぜ必要か、どのような要素から構成されているのかなど、基礎理論を学びます。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、研究室に自由においでください。ただし、臨時の会議等により不在となる可能性もありますので、事前に声をかけていただくと確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。その間、クラス担任（30年）、教育委員会（4年）、園長（6年）に従事。
その他の事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(30時間)	選択
担当教員			
宿南 久美子			
科目ナンバー : 3008A	授業形態 : 演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。</p> <p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション・保育内容総論とは 1 保育内容総論を考える</p> <p>2 保育内容総論とは 2 育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <p>3 保育内容の歴史の変遷 1 明治・大正・昭和の保育内容</p> <p>4 保育内容の歴史の変遷 2 平成の保育内容の変遷と今後の課題</p> <p>5 改訂(定)された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方</p> <p>6 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 1 乳幼児にとっての園行事の意味と在り方</p> <p>7 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 2 保幼小の円滑な連携</p> <p>8 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 1 環境を通して行う保育</p> <p>9 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 2 遊びによる総合的な保育</p> <p>10 全体的な計画の作成と指導計画の作成 1 全体的な計画の作成</p> <p>11 全体的な計画の作成と指導計画の作成 2 指導計画の作成手順と配慮</p> <p>12 保育の評価と保育の記録 1 子ども理解(幼児理解)に基づく評価</p> <p>13 保育の評価と保育の記録 2 観察記録を書く意味と子ども理解</p> <p>14 保育内容の現代的課題 1 子育て支援</p> <p>15 保育内容の現代的課題 2 特別な配慮を必要とする子どもの保育</p>
授業科目の目的	<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。</p>
学修成果	<p>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」と「保育の内容」の関連を理解できるようにします。</p> <p>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できるようにします。</p> <p>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解できるようにします。</p> <p>4. 保育の多様な展開について具体的に理解できるようにします。</p>
テキスト	<p>保育内容総論/栗岡あけみ・宿南久美子・和田真由美・位田かづ代著/豊岡短期大学</p>
参考書	<p>幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館</p>

授業外学修	<p>予習：テキストの該当部分をしっかり読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には30分程度の時間を要します。</p> <p>復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には30分程度の時間を要します。</p>
フィードバックの方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	<p>保育内容とは、幼稚園、保育所、認定こども園において展開される子どもの生活と遊びすべてを含んだもので、子どもの経験や活動全体を表す言葉です。乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画など保育の基本が深まるよう実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて学んでいきます。グループ討議なども行います。確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にしっかり取り組み、積極的な参加を望みます。</p>
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、研究室に自由に来てください。ただし、臨時の会議等により不在となる可能性もありますので、事前に声をかけていただくと確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任（6年）、専任の副園長（2年）と園長（9年）をさせていただきました。（栗岡）
その他の事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。

講義科目名称：健康論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位 (15時間)	選択
担当教員			
栗岡 あけみ			
科目ナンバー	2005D	授業形態	講義
		幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を学んでいきます。授業の進め方は、講義形式を主として進め、適宜、グループワークやディスカッション等を行います。必要に応じて追加資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示しています。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児と健康 健康の概念を理解と領域「健康」における健康の考え方について 2 乳幼児期の発育・発達 乳幼児期の体の発達的特徴について 3 乳幼児期における運動の意義 運動あそびと保育者の関わりについて 4 乳幼児期の基本的生活習慣と健康 乳幼児期の生活習慣と運動機能の発達について 5 乳幼児期の食育1 食育とは何か、現代の子どもの食生活の問題点について 6 乳幼児期の食育2 朝食の役割と食物アレルギーについて 7 乳幼児期における・安全の確保1 安全管理と安全教育、事故防止の指導体制について 8 乳幼児期における・安全の確保2 ケガへの対応と処理、災害への備えについて
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とする。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようにします。 2. 乳幼児期の発育・発達について理解できるようにします。 3. 乳幼児期における運動の意義について理解できるようにします。 4. 乳幼児期の基本的生活習慣と健康について理解できるようにします。 5. 乳幼児期の食育について理解できるようにします。 6. 乳幼児期における健康・安全の確保について理解できるようにします。
テキスト	健康論／豊岡短期大学通信教育 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館
参考書	授業内で適宜紹介する。
授業外学修	<p>予習：毎回授業内で予習課題を出します。図書館を利用して調べて授業準備をしましょう。（所要時間90分から120分）</p> <p>復習：毎回授業内で復習課題を出します。授業内容や新聞、図書館を利用し、整理して述べられるようにしましょう。（所要時間90分から120分）</p>
フィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	<p>受講態度 20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。</p> <p>課題 30%：補助評価シート（ワークシート）を用いたプレゼンテーションの内容とその姿勢を基準とする。</p> <p>単位認定試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とする。</p> <p>上記3領域の配分により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>
受講の心構えとメッセージ	<p>日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、現代の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。</p> <p>また、心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきを図りながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。</p>
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。

実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任（6年）、専任の副園長（2年）と園長（9年）をさせていただきました。
その他の事項	必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、ファイルしておいてください。講義の終わりに次回までの予習する内容と講義の振り返り内容などを示します。予習復習を行って講義にのぞんでください。

講義科目名称： こどもの指導法「健康」

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(15時間)	必修
担当教員			
栗岡 あけみ			
科目ナンバー	3009D	授業形態	演習
		幼免必、保必・	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児期の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、実践事例を取り上げ学ぶ。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」での記述を踏まえ、指導案作成並びに模擬保育を通して、保育者に必要とされる教材の活用法について、討議や実践を行い、乳幼児の育ちを支える保育者の役割について学びます。授業の進め方は、汎用的技能の育成に向けて、グループディスカッションや課題解決・探求学習等にて、健康論の学びを深めるとともに、自らの考えをレポートやプレゼン等にて表現します。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 領域「健康」における指導について 領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）と健康的な生活について 2 模擬保育の構想① 模擬保育の進め方と指導計画立案の理解（グループワーク） 3 模擬保育の構想② 指導計画立案の理解と実践準備（グループワーク） 4 子どもの遊びと運動に関する指導法① 模擬保育の実践（模擬授業） 5 子どもの遊びと運動に関する指導法② 模擬保育の実践（模擬授業） 6 子どもの遊びと運動に関する指導法③ 模擬保育の振り返り（グループワーク） 7 子ども保健に関する指導法① アレルギー疾患について（レポート課題） 8 子ども保健に関する指導法② 子どもの性教育について
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、適切な指導方法を身に付けることを目的とする。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための指導および援助ができるようになります。 2. 幼児期の運動の重要性の理解と発達に合わせて適切な内容を選ぶことができます。 3. 健康に関する教材や保育の指導案作成、模擬保育の体験を通して指導法の基本を理解する。
テキスト	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館
参考書	講義内で適宜、知らせる。
授業外学修	<p>予習：要領、指針、保育要領の領域「健康」を毎回熟読し、類似点や相違点を理解しておいてください。（所要時間90分から120分）</p> <p>復習：毎回授業内で復習課題を提示します。授業内容や新聞、図書館を利用し、整理して述べられるようにしてください。（所要時間90分から120分）</p>
フィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	<p>受講態度 20%：領域「健康」を理解しようと意欲的に受講し、質疑応答を積極的に行う態度、保育者を目指すものとして、グループワークで自分の意見や考えを述べながら、グループの考えを1つにまとめようと協働する態度などを基準とする。</p> <p>課題 30%：発達に合った指導案作成、指導案を用いた模擬保育発表などの姿勢を基準とする。</p> <p>単位認定試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じていることができていくかどうかを基準とする。</p> <p>上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>
受講の心構えとメッセージ	講義内容を実習で応用するつもりで学んでください。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について基本的なことを復習しておいてください。乳幼児が登場する映画を保育者の立場で視聴することを心がけましょう。グループワークは、積極的に参加し、主体的に取り組ましましょう。さらには、自身の健康管理には十分責任をもちましょう。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。

実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任（6年）、専任の副園長（2年）と園長（9年）をさせていただきました。（栗岡）
その他の事項	必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、ファイルしておいてください。

講義科目名称： 保育実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位 (80時間)	選択
担当教員			
栗岡 あけみ			
科目ナンバー : 3026C	授業形態 : 実習	保選	
添付ファイル			

授業概要	<p>社会の状況が変化し「子育て・子育て」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。</p>
授業計画	<p>実習期間</p> <p>以下はおおよその日程です。 豊岡キャンパス 8月中旬から2週間 参加実習・指導実習 姫路キャンパス 8月下旬から2週間 参加実習・指導実習</p> <p>実習計画 保育全般への参加と保育技術の習得 子どもの個人差理解と対応方法の習得 個々の発達や生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応 指導計画の立案と実践 子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得 地域社会（保護者）に対する理解と連携方法 子どもの最善の利益への配慮 保育士としての職業倫理理解 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化</p>
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児の内面理解と保育所機能を深めるとともに、子育て支援や保護者との連携など保育士の職務について学ぶことを目的とします。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようにします。 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようにします。 指導計画の作成、実践、観察、評価、を行い、その重要性を説明することができるようにします。 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようにします。 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようにします。 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようにします。
テキスト	<p>保育実習指導／豊岡短期大学</p>
参考書	<p>保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベ (ISBN978-4-577-81448-2) 保育用語辞典／一藝社 (ISBN978-4-86359-106-6) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 (ISBN978-4-577-81449-9)</p>
授業外学修	
フィードバックの方法	<p>実習終了後、実習簿を利用した振り返り授業を行います。</p>
定期試験の有無	<p>無</p>
成績評価基準	<p>実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）80%、保育実習簿の内容（字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など）20%を総合して評価します。</p>
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。 体調管理をしっかり行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。
オフィスアワー	<p>授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。</p>
実務経験の有無	<p>有</p>
実務経験の概要	<p>（栗岡）…幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任（6年）、専任の副園長（2年）と園長（9年）をさせていただきました。</p> <p>（大西）…保育園、幼稚園、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。</p>
その他の事項	<p>本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）を履修していることが必要です。</p>

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位 (15時間)	選択
担当教員			
栗岡 あけみ			
科目ナンバー	3027D	授業形態	演習 保選
添付ファイル			

授業概要	<p>保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。授業の進め方は、演習や発表を行います。内容によってはグループワークや討議を行います。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習における総合的な学び 保育実習Ⅱの心構え (子どもの最善の利益) 諸手続きについて① 2 子どもの保育と保護者支援 保護者支援の基本とコミュニケーション 職業倫理・諸手続きについて② 3 保育の実践力の育成1 実習日誌の記入方法 総合 (全日) 実習 (遊びと教材研究) 4 保育の実践力の育成2 事前訪問について (実習先の理解) 指導計画の立案・作成について 5 保育実践力の育成3 子どもの状態に応じた適切ななかかわり 表現技術を生かした保育実践発表 (模擬保育) 6 実習直前指導 実習直前指導 (諸注意) と礼状の書き方 7 事後指導における実習の総括と評価1 実習の総括と自己評価 8 事後指導における実習の総括と評価2 自己課題の明確化
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。 また、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することも学びます。実習後は、実習を丁寧に振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。</p>
学修成果	<p>【事前指導】 ・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもち積極的に実習に臨むことができるようになります。 ・子どもの最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができるようになります。 ・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できるようになります。 【事後指導】 ・実習先での学習を客観的に振り返ることができるようになります。 ・自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができるようになります。</p>
テキスト	<p>保育所保育指針解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。</p>
参考書	<p>必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。(リングファイルを準備しておくこと)</p>
授業外学修	<p>保育ボランティアに参加して、子どもと理解や関り方の学びをしましょう。</p>
フィードバックの方法	<p>実習後は、実習簿を使って実習記録や指導案の見直しを行い振り返ります。振り返り授業までに実習先から返却受け取りを済ませて、授業に臨みましょう。また、実習体験を文集にまとめ、自己課題を明確にします。</p>
定期試験の有無	<p>無</p>
成績評価基準	<p>期末定期試験は実施しません。受講態度30%、提出物とレポート40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。</p>
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。先輩保育士から学ぶ謙虚な姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してもらいたいです。 子どもの良いモデルとなれるよう言葉遣い、態度、所作に日頃から注意しましょう。また、保育関係の図書を読み、子どもの育ちや保育者の役割、保育のあり方について、自主的に学習したり、他教科より保育に関係する社会的課題や子育て支援等についても理解を深める努力が必要です。</p>

	<p>実習前には教材研究、保育の計画、指導案の作成などを行い実習先で困惑しないように、積極的に教員の助言を求めて準備をしましょう。実習後は実習記録や指導案の見直しを行います。実習簿の提出期日を遵守し、振り返り授業に臨みましょう。</p> <p>※授業へは全出席すること。やむを得ない理由によって欠席した場合は、科目担当教員の指示を仰ぎ補習を受けること。</p>
オフィスアワー	<p>初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、オフィスアワーとしておりますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。</p>
実務経験の有無	<p>有</p>
実務経験の概要	<p>(栗岡) …幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。</p>
その他の事項	<p>保育士資格を取得するための履修科目が不十分な者、事前・事後指導を正当な理由なく欠席した者、課題・手続きが未了の者、指示・指導に従わない者(学生便覧「実習の心構え」参照)は、実習の履修あるいは単位を認めない場合があります。また、実習意欲が感じられないと判断される者(学生便覧「実習の心構え」参照)は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることもあります。授業には緊張感をもって臨んでください。8回の授業です。出欠日数に気を付けましょう。</p>

講義科目名称： 環境論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位 (15時間)	選択
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバー	2006C	授業形態	講義
		幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、環境とこどもの発達の関係性を考えていく。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要があります。そのために様々な環境との出会いに気づき、子どもの生活に視点をおきながら学びを深めていきます。授業の進め方は、双方向授業(グループワーク、ディスカッション、発表全体交流、実技の模擬保育と環境構成に関する作品づくり)と講義型授業(ノートに記載、実技指導も毎回行う)を行います。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境の定義 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味 2 領域「環境」の位置づけ ねらい・内容 内容の取扱 指導計画 3 保育における環境(保育と環境) 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境 4 幼児の身近な環境との関わり 室内・室外 文字・標識・数量・図形 5 行事 1. 季節の行事 2. 地域の行事 6 地域・施設との関わり 各施設の訪問 国際理解 7 地域探検 住んでる町を知ろう 8 保育者としての専門性の向上 専門性の向上と保育マインド
授業科目の目的	乳幼児期の子どもたちの発達と環境について考えてみることにより、乳幼児の保育を展開していくときにどのような保育環境が必要となるのか、また、そうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて学んでいく。また、乳幼児期の子どもたちが通う保育施設における環境の大切さについても具体的に考えていく。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性が理解できるようにします。 2. 環境を通して行う保育の意味が理解できるようにします。 3. 保育環境のデザインを実践できるようにします。 4. 様々な環境との出会いを理解することができるようにします。
テキスト	環境論/豊岡短期大学通信教育部 幼稚園教育要領解説/文部科学省・フレーベル館 2018年 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府/フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館 2018年
参考書	秋田喜代美編 保育内容「環境」(株)みらい
授業外学修	予習：テキストの授業内容に該当する箇所事前に目を通し予習して、理解が深まるように準備して授業に臨んでください。(所要時間90分から120分) 復習：授業後には、テキストやプリントを見返し復習し、授業での学びを身に付けてください。身近な自然について、日常的に興味・関心を持ち、環境にかかわる力が育つことを期待します。(所要時間90分から120分)
フィードバックの方法	レポートは、授業内容の要点のまとめです。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい内容については、再度授業内で取り上げ説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	受講態度20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 課題30%：レポートや保育環境デザインなどの取り組み意欲や内容を評価する。 定期試験50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とする。
受講の心構えとメッセージ	
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。
実務経験の有無	有

実務経験の概要	・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任（6年）、専任の副園長（2年）と園長（9年）をさせていただきました。
その他の事項	教科書を使用します。忘れないようにすること。必要に応じて資料を配付します。ファイルを事前に準備してください。

講義科目名称： こどもの指導法「環境」

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(15時間)	必修
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバー	3011C	授業形態	演習
		幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	<p>こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していきます。また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいきます。授業の進め方は、汎用的技能の育成に向けて、グループディスカッションや課題解決・探求学習等にて、環境論の学びを深めるとともに、自らの考えをレポートやプレゼン等にて表現します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境とは 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味 2 領域「環境」の位置づけ ねらいと内容 指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3 身近な環境の構成（指導案の構成と作成） 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境 4 保育における環境の重要性と小学校との連続性 好奇心・探究心 思考力の芽生え 5 保育環境のデザイン 室内環境における模擬保育と振り返り 1 室外環境における模擬保育と振り返り 2 6 保育者の3つの役割 環境要素の一つ 保育実践から見えるコーディネーター的役割 こども同士のかかわりあいから考える保育構想 7 さまざまな環境との出会い 標識・文字との出会い 数量と図形・ものの性質との出会い 8 こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題（小学校との連携など） まとめ
授業科目の目的	<p>乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることにより、より良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味について考えていく。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解することができるようにします。 2. こどもを取り巻く様々な環境（人的・物的・自然・社会・文化）について理解し、関心をもつことができるようになります。 3. 保育者の役割を常に考え、保育を実践できる力をつけることができるようになります。
テキスト	<p>幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館 2018年 幼稚園教育・保育要領解説/内閣府/フレーベル館</p>
参考書	<p>「新子どもと環境」－理論編 小田豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080022） 「新子どもと環境」－実技・実践編 小田豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080039） 「子ども環境から考える保育内容」大橋喜美子・三宅茂夫編著（北大路書房）（ISBN：9784762826917）</p>
授業外学修	<p>毎回授業前には、テキスト領域「環境」を熟読して予習し、授業後には、配付資料に目を通し復習することが大切です。（予習復習には90分から120分の学習時間を要します）</p>
フィードバックの方法	<p>授業は、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。特に、様々な環境の振り返りを行い、さらに各自の復習で深まった点の発表を行い、教員がさらに補足します。</p>
定期試験の有無	有
成績評価基準	<p>受講態度10%：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする。 課題40%：グループワークでの発表内容を基準とする。 定期試験50%：授業の内容を踏まえ、保育者を指す上での体験を生かし、解答することができるかを基準とする。</p>
受講の心構えとメッセージ	<p>この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもの立場に立って指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのように環境構成を行い誘導・指導するか、できるかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。日常的に、社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわりの様子について興味をもち、よく観察して保育の眼を養う努力をしてください。</p>
オフィスアワー	<p>初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越</p>

	してください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園教諭、保育士として、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	資料を配付します。ファイルを準備しておくこと。

講義科目名称： 乳幼児保育 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位 (30時間)	選択
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバー	3019C	授業形態	講義 保必
添付ファイル			

授業概要	乳幼児保育の歴史的な歩みと現代における乳幼児保育の現状など、乳幼児保育の基本的な知識を身に付けます。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、安全管理・保育現場における具体的取組や連携などの運営体制を学びます。さらに乳児保育の場における職員間の連携・協働のあり方や保護者との連携や子育て支援への理解を深め、保育者としての人との関係性やその重要性を学びます。保育者として子どもの人格形成の基礎を培う重要な乳児期に関わることへの深い認識をもち、具体的な保育のあり方や心構えを学んでいきます。授業は講義形式が基本です。内容によっては講義に加え演習・グループワークを行い双方向型の授業を行います。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 「乳幼児保育」とは何か 2 乳幼児保育の意義・目的と役割 1 乳幼児保育の意義・役割と歴史的変遷 3 乳幼児保育の意義・目的と役割 2 乳幼児保育の役割と機能、養護と教育 4 乳幼児保育の現状と課題 1 乳幼児保育及び子育て支援をめぐる社会的状況と課題 5 乳幼児保育の現状と課題 2 保育所における乳児保育 6 乳幼児保育の現状と課題 3 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）、家庭的保育等における乳児保育 7 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 1 3歳未満児の生活と環境 8 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 2 3歳児未満児の遊びと環境 9 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 3 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 10 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 4 保育者の援助 保育における配慮 11 乳幼児保育における指導計画 1 保育の計画の必要性 全体的な計画・指導計画 12 乳幼児保育における指導計画 2 指導計画に基づく保育実践・省察・評価 13 乳幼児保育における連携・協働 1 職員間の連携・協働 14 乳幼児保育における連携・協働 2 保護者との連携・協働 15 乳幼児保育における連携・協働 3 自治体や地域の関係機関等との連携・協働
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史とともに変遷を重ねてきた乳児保育を概観しながら、現代における乳児保育の重要性やそのあり方、子育て支援の重要性についての知識を広げていきます。 2. 保育所・乳児院等多様な乳児保育の実際を学び、保育所以外での乳児保育に携わることができる柔軟な保育者としての専門性と資質を養います。 3. 乳児期の心身の発達を学び、子ども一人ひとりへの応答的・感性的な関りの実際と、その重要性を理解し、実践につながるようにします。 4. 園（所）内外における様々な連携について学び、保育実践に活かすことができるよう知識を広げます。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び乳幼児保育の役割について、現代社会の保育と関連付けて考えることができます。 2. 保育所・認定こども園・乳児院等多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解できるようになります。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた実践的な保育内容のポイントを理解できるようになります。 4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び地域の関係機関等との連携のあり方と重要性を実践に結び付けて考えられることができるようになります。
テキスト	乳幼児保育／國光みどり・山中ます子他著／豊岡短期大学／2019. 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2 NDC376

参考書	授業の中でプリント、資料を配布します。
授業外学修	予習として、授業前にはテキストを読み疑問点があれば各自で調べておくようにしましょう。授業後には学びを確認するための復習として課題レポートの作成を行い確実に提出するよう心がけましょう。予習90分から120分、復習90分から120分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	皆さんの授業中における気付き及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については次回の講義で口頭により説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、課題・レポート提出30%、定期試験60%により数量化して総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	新しい保育制度の中で、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性が改めて強調されています。乳幼児は保育者の心のこもった養護と、心と心のふれあいを通して乳幼児の情緒が安定し、人や自分の生活する世界への信頼感を獲得していきます。保護者同様、乳幼児にとって最も身近な存在である保育者の関りが、乳幼児の人格形成に大きな影響を与える、といっても過言ではありません。真摯な気持ちで受講してください。
オフィスアワー	初回の授業日に曜日・時間帯をお伝えいたします。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園教諭、保育士として、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

講義科目名称： 乳幼児保育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位 (15時間)	選択
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバー	授業形態	保必	
3020D	演習		
添付ファイル			

授業概要	乳幼児保育Ⅱでは、乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、より実践的な乳幼児との関わりの意義や具体的な方法を学び、一人ひとりの子どもと受容的、応答的なかかわりができるように数多くの保育技術を習得します。3歳未満児の発育・発達をふまえた子どもの生活援助や保育環境の構成及び、子どもの成長発達を促す遊びの実践・手作りおもちゃの作成・沐浴実践など、保育の場を想定した実践的な学びを深めます。授業は講義形式が基本です。内容によっては講義に加えグループワーク・模擬実習を行い双方向型の授業を行います。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／乳幼児保育の基本 1 子どもの主体性の尊重と自己の育ち (事例で学ぶ) 2 乳幼児保育の基本 2 個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的なかかわり 3 乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実際 1 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 4 乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実際 2 1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 5 乳幼児における発育・発達と遊びの実際 1 手作りおもちゃの研究・制作 1 6 乳幼児における発育・発達と遊びの実際 2 手作りおもちゃの制作 2 7 乳幼児における発育・発達と遊びの実際 3 手作りおもちゃの発表・評価 8 乳幼児保育における発育・発達と生活の援助 まとめ 沐浴・調乳・授乳演習
授業科目の目的	乳幼児保育Ⅰでの基礎的知識を素地として、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえたより実践的な援助や関わりを理解します。養護と教育の一体性をふまえ、3歳未満の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解するとともに、保育者としてより実践的な保育技術を習得します。事例研究、グループワークを通して、乳幼児保育における配慮の実践を具体的に体験し、乳幼児への視野を広げていきます。多面的な保育の視点を養い、学びを集結し乳幼児の保育計画の作成についての知識を深めます。
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の特性を理解し、実践的な援助や関わり方を理解します。 2. 3歳未満児の発達を理解し、子どもの発達を促す遊びやその遊びに必要なおもちゃの作成を通して、子どもにふさわしい遊びの環境づくりが理解できるようになります。 3. グループワーク・模擬保育を通して乳幼児保育の実践を体験し、子どもたちに必要な援助・配慮の在り方を理解し、実践に応用できるようになります。 4. 各年齢における乳幼児の生活を多面的に理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成をすることができます。
テキスト	保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2 NDC376 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府、厚生労働省、文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4577-81449NDC376 必要に応じてプリントを配布します。
参考書	
授業外学修	予習では、授業内に配布されるプリントを熟読し、学びのポイント・キーワードを理解しておきましょう。この学びには45分の学習時間を要します。 復習では毎回の授業を振り返りながら、レポートをしっかりと作成し学びのポイントをまとめておきましょう。この復習には90分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	皆さんの疑問や気づき及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については、次回の授業のなかで説明・補足していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート40%、定期試験50%により、数量化して総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	皆さんが保育者として自信をもって社会で貢献していくことができるように、乳幼児保育Ⅱでは乳幼児保育Ⅰで学んだ基礎知識を基にして、より専門性を高めていくための学びを多く取り入れています。また、保育実習での経験を活かして、グループワークなどのより実践的な授業にしていきたいと思っています。
オフィスアワー	初回の授業日に曜日・時間帯をお伝えいたします。
実務経験の有無	有

実務経験の概要	幼稚園教諭、保育士として、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

講義科目名称： 教育実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4単位 (160時間)	選択
担当教員			
國光 みどり			
科目ナンバー	3022D	授業形態	実習
		幼免必	
添付ファイル			

授業概要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深めます。また、保育の内容・方法・保育者の役割等を理解し、実践力を養います。</p> <p>豊岡キャンパスでは、このとり認定こども園で40時間、学外の幼稚園または幼保連携型認定子ども園、幼稚園型認定こども園で120時間の実習を行います。姫路キャンパスでは、学生の出身園を主とした幼稚園、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園で160時間の実習を行います。</p>
授業計画	<p>実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。</p> <p>○令和3年度入学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡キャンパス 〔このとり認定こども園〕 <p>Aクラス：令和 4年 9月 5日(月) ～ 9月 10日(土)の期間に40時間実施。 Bクラス：令和 4年 9月 12日(月) ～ 9月 17日(土)の期間に40時間実施。</p> <p>〔学外幼稚園・認定こども園〕 令和 4年 10月 3日(月) ～ 10月22日(土)の期間に120時間実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路キャンパス 〔学外幼稚園・認定こども園〕 <p>令和 4年 10月 3日(月) ～ 10月31日(月)の期間に160時間実施。</p>
授業科目の目的	<p>実習は、幼児や保育に関して修得した知識や理論を保育の実際場で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることが目的となります。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深め、説明できるようにします。 2. 幼稚園教諭・保育教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解できるようにします。 3. 幼稚園教諭・保育教諭としての自己課題を明確にし、言葉で表現できるようにします。
テキスト	
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>
授業外学修	
フィードバックの方法	<p>(豊岡キャンパス) 1年生後期から実施する「教育実習事前・事後指導」の授業において、レポート課題等でみなさんの理解度を確認し、解説や補足が必要な場合、また質問に関しての解説を次の授業で行います。2年生は9月に実施するこのとり認定こども園における40時間の実習後に反省会をもち、質問事項を解説する場を設けます。自分自身の今後の課題を探り10月の学外実習がさらに充実するように教員とともに学び合います。</p> <p>(姫路キャンパス) 1年生後期から実施する「教育実習事前・事後指導」の授業内で実施するレポート課題等で、みなさんの理解度を確認し、解説や補足が必要な場合、質問事項に関しての解説を次の授業で説明するなど、課題を解決し学び合う場を設けます。</p>
定期試験の有無	無
成績評価基準	<p>(豊岡キャンパス) 各実習園からの評価(実習態度・資質・指導能力)80%、実習簿の内容20%により総合的に評価します。</p> <p>(姫路キャンパス) 実習園からの評価(実習態度・資質・指導能力)80%、実習簿の内容20%により総合的に評価します。</p>
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場では、学生であっても幼児達にとっては「先生」です。保育者としての自覚をもち、身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い等、わきまのある態度で実習に臨んでください。 ・幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。また、先輩保育者から学ぼうとする謙虚で素直な姿勢で意欲的に臨んでください。 ・保育者が保育を楽しむと幼児達も楽しいと感じます。何よりも皆さん自身が保育の楽しさを見つけましょう。 ・体調管理を十分に心掛けましょう。また、諸注意を遵守し責任をもって行動しましょう。
オフィスアワー	<p>初回の「教育実習事前・事後指導」の時間に、曜日と時間はお伝えします。ただし、臨時の会議や出張等により不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けてください。</p>
実務経験の有無	有
実務経験の概要	<p>幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。その間クラス持ち主任(2年)、副園長(4年)園長(2年)に従事。</p>

その他の事項	
--------	--

講義科目名称： 教育実習事前・事後指導

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期～2年通年	1年～2年	1単位（45時間）	選択
担当教員			
國光 みどり			
科目ナンバー	授業形態	幼免必	
3023D	演習		
添付ファイル			

授業概要	<p>教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。実習に向けて、実習生としての心構えを学びます。また、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。授業は保育の実践を学ぶため、VTRを視聴し保育の場をより明確にイメージしながら討論したり、模擬授業を実践したりし、教育実習に向かうための実践的な知識と技能を深めていきます。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション <input type="checkbox"/> 幼稚園教育の特質、実習の意義と目的 <input type="checkbox"/> 実習先決定のための事前調査・個人調書の作成</p> <p>2 保育者としての倫理 <input type="checkbox"/> 実習生としての心構え、守秘義務</p> <p>3 実習の内容と方法 <input type="checkbox"/> 観察実習・参加実習・責任実習</p> <p>4 幼児理解と保育 <input type="checkbox"/> 幼稚園・認定こども園の役割</p> <p>5 教育課程・指導計画 <input type="checkbox"/> 長期指導計画・短期指導計画</p> <p>6 保育の実際（5歳児） <input type="checkbox"/> 環境構成・幼児理解</p> <p>7 実習日誌の記録方法（5歳児） <input type="checkbox"/> 環境構成・幼児理解・援助及び配慮</p> <p>8 保育の実際（4歳児） <input type="checkbox"/> 環境構成・幼児理解</p> <p>9 実習日誌の記録方法（4歳児） <input type="checkbox"/> 環境構成・幼児理解・教師の援助及び配慮</p> <p>10 保育の実際（3歳児） <input type="checkbox"/> 環境構成・幼児理解</p> <p>11 実習日誌の記録方法（3歳児） <input type="checkbox"/> 環境構成・幼児理解・教師の援助及び配慮</p> <p>12 実践的演習1 <input type="checkbox"/> 幼児の発達に応じた歌・手あそび演習（9月・10月）</p> <p>13 実践的演習2 <input type="checkbox"/> 子どもの発達を考慮した絵本・紙芝居の導入と読み聞かせの実際</p> <p>14 指導案の作成 1 <input type="checkbox"/> 指導案の立案と作成</p> <p>15 模擬保育1 <input type="checkbox"/> グループに分かれ模擬保育の話し合い</p> <p>16 模擬保育2 <input type="checkbox"/> 模擬保育①</p> <p>17 模擬保育2 <input type="checkbox"/> 模擬保育②</p> <p>18 オリエンテーションについて <input type="checkbox"/> 実習に向けての心構え <input type="checkbox"/> 実習日誌等の取り扱い・提出等の事務確認 <input type="checkbox"/> お礼状について</p> <p>19 実習の振り返り（豊岡） 学外実習に向けて <input type="checkbox"/> 自己評価と課題</p> <p>20 学外実習 直前指導 <input type="checkbox"/> 実習生としての心構え・準備物 <input type="checkbox"/> 身だしなみ等の確認 <input type="checkbox"/> 提出物等の期日の確認 <input type="checkbox"/> お礼状について</p>

	21	学外実習の振り返り 1 □実習体験発表①
	22	学外実習の振り返り 2 □実習体験発表②
	23	学外実習の振り返り まとめ □自己評価と課題・実習体験集作成
授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また実習後には実習の振り返りを行いながら自己評価を行い、自分自身の課題や学修目標を明確にすることを目指します。	
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができるようになります。 2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができますようになります。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学び説明することができるようになります。 4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができるようになります。 5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができるようになります。 6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に立てることができるようになります。 	
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／田治米富子・堀和弘編／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4-577-81447-5NDC376 適宜プリント等の資料を配布します。	
参考書	保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4-577-81448-2NDC376 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-577-81449-NDC376	
授業外学修	予習：各回の授業前に、テキストの内容をしっかりと読んでおいてください。この予習には45分を要します。 復習：この授業は実習に関わる多くの事前準備を整えることになり、そのためには心構えや指導案の作成を含むことになり、各回の授業後、その内容について、自分自身の考えをまとめたり、必要な資料等を作成してください。この復習には90分を要します。	
フィードバックの方法	幼児から見ると、実習生は身近な大人であり保育者です。一人の教師としての振る舞いが身に付くよう普段の学校生活の中で挨拶や言葉遣い、気遣いや心配り等についても常に意識がもてるよう伝えていきたいと考えています。もちろん、保育についての基礎知識、実習日誌の記録方法、発達年齢に合った指導案の立案等は具体的に指導していきます。 レポート等の提出物にはコメントし、返却します。	
定期試験の有無	無	
成績評価基準	授業態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。	
受講の心構えとメッセージ	実習を通して「保育者になりたい」という気持ちが高まることを願っています。そのためには、実習で子どもと関わることの楽しさ・保育の楽しさを体験することです。事前指導で、実習生に求められる心構え、身だしなみ、言葉遣いを始め、実習の意義・目的、幼児への理解・観察の視点、さらに指導案の作成等を学びます。しっかりと学んで自信をもって臨みましょう。	
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお伝えします。担当者が不在の場合もあり、事前に「Melly」での予約をしていただきます。	
実務経験の有無	有	
実務経験の概要	幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年間勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。	
その他の事項		

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
小西 浩美、大西 由美子			
科目ナンバー： 3030D	授業形態： 演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	<p>これまでの授業や実習などで形成してきた教師・保育者としての資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努めます。</p> <p>さらに、専門職業人としての円滑なスタートができるように、保育・教育現場に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス等を通して、実践的指導力を身につけます。</p> <p>授業は講義に加えDVD視聴により保育の実際を学び、授業内容に応じてグループワークや討議を行いながら、双方向型の授業を進めていきます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 授業の概要と到達目標の確認、自分自身を知ることから自己変容へ 2 教師という職業1 教職の意義、保育者の専門性 3 教師という職業2 保育者の使命感や責任感、教育的愛情・倫理観 4 保育者としての学級経営1 子ども理解と集団づくり 5 保育者としての学級経営2 課題のある子ども・理解しにくい子どもへの対応 6 保育者としての学級経営3 発達に遅れのある子どもへの対応 7 保育者としての学級経営4 教職保育職における対人関係 保育者と保護者・組織的な協働 8 保育者としての学級経営5 人権教育の観点からの保育 一人子どもの権利条約 9 特別支援教育への理解と対応 特別支援教育と教師・保育者における役割と保育の援助 10 保育カンファレンス1 生きる力を育てる保育—まなび— 11 保育カンファレンス2 生きる力を育てる保育—かかわり— 12 保育カンファレンス3 生きる力を育てる保育—いのち— 13 信頼される保育者 危機管理と危機対応 14 保幼小連携 幼保小のなめらかな接続のために 15 学修のまとめ 履修カルテの作成と活用 今後に向けての課題
授業科目の目的	<p>本科目では、幼稚園教諭・保育士の養成課程で学んできた知識と保育・教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育士・保育教諭としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、専門職業人としての研修の必要性和自己研鑽に努める自覚をもち、人を教え育てる専門家としての生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。</p>
学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師・保育士としての資質・能力とは何か、また教員として働く意味や使命感・責任感について再確認し高めることができます。 2. 教師・保育士に求められる社会性や対人関係力を高めることができます。 3. 教師・保育士としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができます。 4. さまざまな子どもや保護者との出逢いを想定しながら保育力を養うとともに、保護者に対する子育て支援の実際を学び保育の実践力を養うことができます。 5. 危機管理についての知識をもち、安全・安心な保育の意義を理解し保育実践に結び付けて考えていくことができます。
テキスト	<p>ワークで学ぶ 保育・教育職の実践演習/増田まゆみ・矢藤誠二郎/建帛社/2014. ISBN：978-4-7679-5006-8 C3037</p> <p>プリント等必要に応じて配布します。</p>
参考書	<p>授業の中で紹介します。</p>

授業外学修	<p>予習：テキストの該当部分をしっかり読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には90～120分程度の時間を要します。</p> <p>復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には90～120分程度の時間を要します。</p>
フィードバックの方法	レポートは、その日の学習の要点となります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験50%、提出物30%、授業態度・グループワークへの参加状況20%で数量化し総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	<p>本科目は、教職課程の科目やさまざまな活動を通して得た力が、教師・保育士として必要な資質能力として身に付いているか確認していく。また、将来教師・保育士になる上で自己の課題が何であるか、現時点で不足しているものは何かを見つめ、補いながらその定着を図ることで教師・保育士生活をスタートできるようにすることを目的としています。</p> <p>授業を通して、教師・保育士という職業を見つめ返し、現時点よりさらに力を付けて保育現場に飛び込んでいけるようにしましょう。グループ討議の場を大切にしたいと考えています。予習・復習を心がけ意欲的に参加してください。</p>
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお知らせします。教員が不在ことがあるので、事前に「melly」からの予約をしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	
その他の事項	